



近代史への関心を

旧真田山陸軍墓地

一般に、歴史に学ぶと言います。戦国時代を始めとする歴史の表舞台で活躍する武人や治世者の言行や、時代を越えて語り継がれる哲学や思想、文化や芸術を学ぶことは、現代を生きる我々に智慧や活力を与えてくれます。

街に残る歴史

明治維新を含む近世以前の事件や史実は、興味を持つ方も多く、漫画やビジネス書でも取り上げられるのですが、維新以降、先の大戦までの近代史は、つい最近の出来事にも関わらず、歴史の授業で割かれる時間が少なく、書物の題材として取り上げられることも少ないようです。

一方で、市街に眼を向けると、戦火に耐えて生き残った建物や、保存されている施設が多くあることに気づきます。それらは、私たちに直接繋がる歴史 人々の営み を語り、現代の繁栄の礎を造った市井の人々の物語を伝えます。今回は、大阪の近代史の一面を知る施設のひとつ、旧真田山陸軍墓地と、特定非営利活動法人「旧真田山陸軍墓地とその保存を考える会」の活動を紹介します。

旧真田山陸軍墓地

旧真田山陸軍墓地は、大阪市天王寺区玉造本町にあります。面積4569坪（1万5077.3㎡）の敷地に、5299基を越える個人墓地をはじめ合葬墓や納骨堂などに、軍役中に亡くなった方達が眠っています。明治4年（1871）の創設から、昭和20年（1945）の太平洋戦争終結まで陸軍が維持、管理をしていました。戦地での戦病死者だけでなく、訓練中の病死や平時の死者、また、軍人だけでなく軍役夫といわれる、軍に雇われて輸送に従事した方々や、職工、看病人、外国人の俘虜の墓碑も祀られています。

墓地が語る近代史

大村益次郎は、明治新政府で陸軍の創設を指揮しました。長州の村医の家に生まれた彼は、医学を修める傍ら、大坂で緒方洪庵の適塾に学び、塾頭まで進みました。大阪市内に

彼の顕彰碑が多く残されています。大村は大阪を陸軍創設の拠点と定め、大阪鎮台（軍隊の編成単位）の本営を始め、大阪砲兵工廠（兵器工場）など多くの施設を建設しました。真田山の埋葬地も、その際に定められました。全国80カ所にある陸軍墓地の中で最初に創設されました。

明治10年（1877）の西南戦争では、大阪には陸軍臨時病院が置かれました。埋葬地には、戦地で負傷し大阪で亡くなった500名以上の方や、当時に流行したコレラで亡くなった方385名の墓碑が建てられました。墓石には出身地や略歴、死亡原因も刻まれており、当時の戦争に国民ひとりひとりがどのように関わったかが判ります。明治政府として初めて外地で戦争を行った日清戦争では、戦死者は出身師団で葬ることとされました。大阪の第四師団は実際の戦闘には参加していないものの、大陸での待機中に疫病でなくなった1337名の方の墓碑が建っています。明治37年（1904）の日露戦争では、あまりに戦死者が多く、個人墓では間に合わず、兵士は兵士、将校は将校と、軍の階級のことにとまどめられた合葬墓が建立されました。昭和6年（1931）の満州事変の時のものと合わせ、5基の合葬墓が残されています。

昭和12年（1937）に始まった日中戦争や、太平洋戦争では、忠霊堂が建てられ4万3000余名の骨壺が安置されました。大阪関係の戦没者は15万人を越えているのですが、すべての人の骨壺が安置されなかった事から、当時の混乱した状況が判ります。

昭和20年8月15日の敗戦以後は陸軍自体がなくなり、管理されることもなくなりました。墓地自体が荒れた時期です。昭和22年（1947）に国から無償貸与された大阪市が管理主体となり、四天王寺住職の田村徳海師が組織した大阪靖国維持会と地元の方々の奉仕活動により美しく維持されるようになりました。

歴史に学ぶ活動

今回は、旧真田山陸軍墓地とその保存を考える会の吉岡武さん（72）にご案内いただきました。同会は平成13年（2001）に、大阪電気通信大学教授・小田康徳さん、前岸和田高校教諭・横山篤夫さん、大阪市史編纂所長・堀田暁生さん、空堀振興町会会長・吉岡武さんの呼びかけにより結成されました。旧陸軍墓地の本当の姿や歴史的意義を研究し、後世にむけた保全・保存のための活動をしています。平成16年（2004）には特定非営利活動法人（NPO）としての登記を行いました。現在は、「研究報告会」「ミニ研究会」「墓地案内会」などを開催するとともに、広く会員を募集しています。

「旧真田山陸軍墓地は戦前日本の軍隊と戦争、それが国民と



ご案内いただいた吉岡武さん



「旧真田山陸軍墓地とその保存を考える会」主催の研究報告会

どのような関係かをしめす貴重な歴史遺産です。また施設の集中した大阪という巨大な都市の近代史を知る生きた遺物でもあります」と吉岡さんは語ります。旧真田山陸軍墓地には明治4年以降の戦争の全てがあります。戦争反対を安易に唱えるだけでなく、戦争とは、一体如何なるものかという事を、史実として現存するものから掴む事が肝要です。西南戦争から太平洋戦争まで、歴史を具体的に証明している旧真田山陸軍墓地から、学ぶことができると思います。生命の果てを納めている旧真田山陸軍墓地。八月の終戦記念日を迎える前に、再度、襟を正し考えてみたいと思います。

旧真田山陸軍墓地

大阪市天王寺区玉造本町15¹2

JR玉造駅から西へ5分

地下鉄玉造駅2番出口近く

特定非営利活動法人

旧真田山陸軍墓地とその保存を考える会

事務局 寝屋川市初町18の8

大阪電気通信大学小田研究室

電話072・824・1131

毎月第4日曜日に13時30分から定期見学会実施(12月、1月、7月を除く)

<http://www.jitk.zaq.ne.jp/bacas400/sanabou/>

掲載の記事 写真イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

株(ファッションビジネス 御堂筋新聞